

# 令和元年度第1回成田市男女共同参画計画推進懇話会会議 概要

## 1. 開催日時

令和元年8月9日（金）10：00～11：30

## 2. 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

## 3. 出席者

（委員）

川崎委員、軸屋委員、諸岡委員、石渡委員、飯田委員、櫻井委員、石綿委員、浅野委員、  
多田委員（代理 伊藤社会福祉課補佐）、坂本委員、内田委員、藤田委員、山倉委員

（成田市）

加瀬林市民生活部長、石井市民協働課長、多田市民協働課主幹（兼男女共同参画係長）、  
河田市民協働課主査

## 4. 議題

（1）「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」「成田市女性活躍推進計画」  
平成30年度事業実績について

（2）「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」「成田市女性活躍推進計画」  
平成30年度実施状況報告書の作成について

（3）その他

## 5. 議事(要旨)

○議題（1）「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」「成田市女性活躍推進計画」  
平成30年度事業実績について、市から報告を行った。

○議題（2）「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」「成田市女性活躍推進計画」  
平成30年度実施状況報告書の作成について、市から説明を行った。

○議題（3）その他

## 6. 質疑等

主な質問・意見は以下のとおり

（1）「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」「成田市女性活躍推進計画」  
平成30年度事業実績について

委員： 「保育園運営事業」について、待機児童は減っているが、保育士は充実しているのか。また、児童ホームについても指導員は足りているのか。

市： 現在入所している児童分については、きちんと配置できている。

委員： 報道等で保育士が不足しているというニュースを目にするため、質問した。成田市で配置されていればそれで構わない。

市： 担当課には、そのような意見があったことを伝えたい。

委員： 待機児童と入所待ち児童は性質が違うものと思うのだが、この考え方は。数字の違いはどう捉えればよいか。

市： 入所待ち児童とは、入所希望を出し、希望する園に入れない児童全員を指す。待機児童は、

入所待ち児童の中で国が定める基準に該当する児童を指す。入所待ち児童の中に待機児童が含まれる。

委員：聞いたところによると、希望する（公立保育）園が定員にはなっていないが入所できないということで、私立の保育園に時間をかけて預けている母子家庭があった。公立の保育園は基準に則って事務をおこなっていると思うが、家庭の事情を汲んでほしい。

市：担当課に伝える。

委員：「ユニバーサルデザインやノーマライゼーションの理念に基づく環境整備」、「地域包括センターの整備・充実」、「障がいのあるひとへの地域生活支援事業」、「在宅助成給付事業」、「地域介護予防活動支援事業」の男女共同参画の視点からの評価だが、「男女の区別なく、支援を行っている」で評価になっているのか。

市：来年度以降について、分かりやすい評価になるよう担当課と協議していきたい。

## (2) 「第3次成田市男女共同参画計画 成田市DV対策基本計画」「成田市女性活躍推進計画」

### 平成30年度実施状況報告書の作成について

委員：「キャリア教育充実」の実績について、子供のこと、先生のこと等、内容を分けた記載がいいのではないかと。また、実績の中に「平成27年度からは」との記載がいくつかあるが、これはいつまで記載するのか、整理が必要ではないかと。また、家庭科教育について、該当学年などがあれば、もう少し具体的な記載があったほうが良い。報告書を読む様々な人の視点で捉えることが必要と思われる。また、活動指標と実績で整合性が取れていない箇所が見受けられる。指標にあった実績を記載すべきでないかと。

市：担当課と協議をしながら、わかりやすい表記に努めたい。何年度から事業を始めたという表記も併せて何年間表記するのか精査していきたい。活動指標と実績に間違いがないように確認しているが、確認が漏れているところがあるかもしれないので、再度確認をしていく。

委員：「市女性職員の活用・職域拡大等の推進」で、実績が「性別や年齢にとらわれることなく、能力や意欲等を重視した人員配置に努めた」とあるが、意欲というのはどのように捉えたのか。

市：人事課により毎年1回意向調査を行っているが、その中で管理職への希望を問うチェック項目がある。それをもとに人事課は判断している。

委員：「妊娠・出産などに関する情報提供」と「母子保健事業」の双方に母親学級の記載がある。事業の内容は重複していないか。

市：母親学級については、「情報提供の場」や「母子保健事業」など様々な内容を持った事業となる。内容に則した項目への記載をしている。

委員：女性のための相談実績で「コマ」という言葉を使っているが、この単位が分かりにくい。

市：時間の枠を示す適当な単位は何かを考えた結果、「コマ」という表現を用いた。

委員：女性のための相談は245回開いた中で、177回相談が入ったということでのいいのか。

市：その通りである。

委員：いろいろな捉え方がある。誰がみてもわかるような表現にしてほしい。

委員：「女性のための相談」は相談数となっているが、人事課、子育て支援課は相談件数となっている。相談件数とすることは可能か。

市：可能である。

- 委員： 「女性のための相談」のキャンセルが多いように感じるが。
- 市： 相談したい悩みなどがあることを、同居の家族にも知られたくないために、問い合わせの電話もできない。急遽体調が悪くなり、突然キャンセルということは少なくない。
- 委員： 当日キャンセルとなった方のフォローも大切と感じる。ほかの部署につなぐということはどうなのかな。
- 市： 氏名や住所などをできるだけ明かしたくないという方でも相談できるよう、氏名も苗字のみ、住所も大字のみを受付時に確認している。しかし、中には緊急性のある相談もある。その方については、個人情報聞き担当課につなぐように配慮している。
- 委員： 相談に来られる人と、来られない人がいる。そのあたりを丁寧に対応することで救われる人がいると思う。各課の連携で支援してほしい。
- 委員： 児童虐待を防ぐための体制整備の充実の事業で、代表者会議、実務者会議、個別支援会議とあるが、これらの違いは何か。
- 委員： 代表者会議は子育て支援ネットワークという大きな組織の代表者、市のほか警察、学校等の機関の長が集まる年1回の会議のことであり、実務者会議というのは、実際に業務に携わっている方が集まり話し合う年4回の会議である。個別支援会議というのは、関係者が集まって方向を決めて対応していく会議で、随時開催し回数はとても多い。
- 委員： 個別支援会議の回数は。
- 委員： 3日に1回程度の頻度である。事案の総件数は100件ほどある。
- 委員： 野田市での事件のように、何かあってからでは遅いので、未然に防ぐという体制づくりを学校、家庭、地域が連携して進めることが必要だと思う。
- 市： 個別支援会議の実績回数の記載がないので、担当課とも協議をし、記載したい。

### (3) その他

なし

#### 7. 傍聴者

1名

#### 8. 次回開催日時

未定